

タイムスリップ中世②を利用して 時代イメージをつかませる

鳥取県 公立中学校教諭

タイムスリップ中世②について



タイムスリップ中世②のイラストは、貿易・商業の発達とともに生まれてきた、多様な人々が行き来する、活気あふれる都市（このイラストの場合港町）の様子をイメージ豊かに描いている。かなり考えられて描かれており、教科書の学習内容と関連づけることのできる部分がたくさんある。

ただ、タイムスリップ中世①の農村のイラストなどに比べると、多様な人々が描かれていて、その分情報量が多く、資料を読み取る際に、焦点を絞りにくいという点を配慮した指導の工夫が必要である。

また、イラストを授業のどの場面で、どのように使用するかということもポイントになる。

単元の構想

まずは、このイラストを「2節 海に開か

れた時代」および「3節 いまにつながる生活・文化」の単元の導入場面に使用し、雑多な情報が描き込まれているこのイラストの隅々までしっかり目を向けさせ、時代のイメージをつかませるとともに、単元への興味・関心を高めるねらいで使用したい。ただし、「都市を中心に様々な産業が発達してきた。」「それにともなって、様々な職業の人々が現れてきた。」この程度のことを大まかにイメージできたり、自

分なりの疑問や気づきを持てればよしとし、具体的で細かな内容については、以後の単元展開の中で、そのつどイラストを開かせながら、関連づけていくこととする。

そして、単元の学習の最後に、再度このイラストを使用し、単元の学習を生かしてイラストの解説文を作成するという活動を行わせることで、時代イメージをビジュアルにつかませたい。

単元の導入の授業展開

単元の導入ということを考えれば、多くの生徒が参加でき、多様な発言が引き出せる発問が望ましい。季節や、場所をイラストから予想させるという方法もあるが、このイラストから多様な反応を引き出すのは難しいと思われるので、今回はイラストの中に登場する様々な人々に注目させて、イラストの細部に

まで目を配らせるために、以下のように発問・指示する。

発問 1 このイラストの中には、どんな職業・身分の人が描かれていますか。

指示 1 できるだけたくさん書き出さない。職業・身分名がわからなければ、「～をする人」など自分が書きやすい形で書きなさい。

5分程度時間を保障し、ノートに書き出させ、発表させる。その際、黒板にイラストの拡大コピーを張って示しながら発表させる。

<予想される生徒の反応>

- ・猿の芸をさせる人
- ・魚などを売る人
- ・着物屋
- ・荷物の運送業者
- ・武士
- ・大工さん
- ・船員
- ・米屋さん
- ・焼き物屋さん
- ・刀屋さん
- ・ガードマン
- ・乞食
- ・お坊さん
- ・桶屋さん

など



上記の人物などは、生徒の意見が分かれるかもしれない。意見が分かれるものがあれば、生徒に一度もどして考えさせるのもよい。

発言が途切れたら、イラストの描かれた場面を限定するために、以下のような一問一答

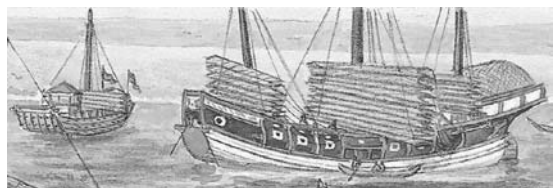
を行う。

Q1：このイラストの中には、外国の人が描かれています。どこですか。

Q2：このイラストの場所（都市）はどこでしょう。

ここは、テンポよく進める。生徒の反応が鈍い場合には、教師が説明する。

Q1については、中国商人は、教科書に説明があるのですぐにわかるが、朝鮮商人は難しい。帽子の形に注目させる。



また、朝鮮船、中国船について確認し、外国船がやってくる大きな港ということで、Q2につなげる。

教科書p.69の図③を生徒が見つけたら、おおいにほめ、イラストと教科書本文の記述内容には関連性があることを示唆する。



③14～15世紀の東アジア

帝国書院「中学生の歴史 初訂版」p.69

発問 2 このイラストからの、気づき(わかったこと・考えたこと・疑問に思ったこと)をノートに3つ以上書きなさい。

5分程度時間を保障し、ノートに書かせる。
最低3つ以上と、数を示すことで生徒のやる
気を引き出す。

5分後、生徒の気づきを発表させる。教師
は要点を板書する。

<予想される生徒の反応>

- ・顔に包帯を巻いた人は何をしているのか。
- ・いろいろな形の帽子をかぶった人がいる。
- ・町が大変にぎわっている。
- ・海上にたくさんの船がいる。
- ・上半身裸の人が多いため、季節は夏だ。
- ・外国船（中国船・朝鮮船）は、何を積んで
きているのか。
- ・店がたくさんあって、商店街ができてい
る。
- ・町の真ん中に柵や門があるのはどうしてか。
など

導入後の授業展開と留意点

生徒が出してきた気づきは、以後の単元展
開の中で常に意識させるとともに、指導する
教師も、生徒の気づきをできるだけ授業の中
に生かすように授業を進めていくことが大切
である。

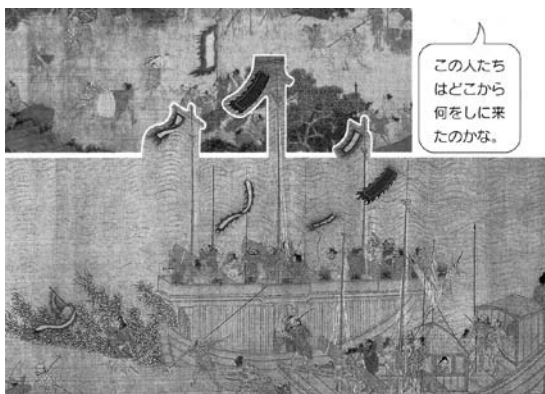
たとえば、悪党を学習する際には、教科書
p.66の図①を見せて、「この絵の中の人たち



①悪党の姿

帝国書院「中学生の歴史 初訂版」p.66

と、似たような風貌の人物がイラストの中
にいなかったかな？」と問うてみたり、倭寇を
学習する際には、教科書p.68の図①の図を見



①和寇

帝国書院「中学生の歴史 初訂版」p.68

せて、「倭寇の船と同じような型の船が港にい
なかったかな？」などと、学習内容とイラスト
を絶えず結びつけながら学習を進めること
を意識する。

授業の中で学習する内容や用語を、イラスト
のイメージと結びつけることができるよう
になれば、単元の最後に生徒に作成させる予
定の、イラストの解説文の内容も、より具体
的なものとなり、生徒の中世社会への理解度
をより一層確実なものとすることができると
思う。

イラスト解説文の作成と評価

単元の最後に、中世の学習のまとめとして、
これまでの学習成果を生かしながらイラスト
の解説文を作成させる。

その際、指導書にあるタイムスリップイラスト
解説のような部分ごとの解説文よりも、
できるだけこのイラストを、全体として解説
させるものをつくらせたい。中世という時代
をどのようにとらえたのか、できるだけ自分
の言葉や表現で考えさせたいからである。

完成した作品は、小グループで評価し合い、
各グループの代表作品を1点ずつ決定し、さ
らに、それらをクラス掲示するなどしてクラ
ス全体でも評価させたいものである。